



# ガソリン携行缶

## 取扱い説明書



●本缶を改造したり、指定容量以上のガソリンを絶対に入れたりしないで下さい。

■本缶は危険物保安技術協会より認定を受けております。

■本取扱説明書は、大切に保管して下さい。■仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。

2015.4



# ガソリン携行缶取扱い説明書

この度は、KB印ガソリン缶をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。  
当容器は、ガソリンの小分け運搬を目的として製造しておりますので、ご使用前には本説明書をお読みの上、必ず記載事項を守ってご使用下さい。

## ①製品および付属品の説明



製品コード	KS-10Z	KS-20Z	KS-20SUS
指定容量	10 L	20 L	20 L
主 材 料	電気亜鉛メッキ鋼板	電気亜鉛メッキ鋼板	ステンレス鋼板(SUS304)
寸 法 (mm)	350×165×294	350×165×470	350×165×470
乾燥重量	2.8kg	4.5kg	3.8kg
板 厚	0.8mm	1.0mm (上部取手部0.8mm)	0.8mm
JANコード	4946951020017	4946951020024	4946951020109

※ご使用になる前に下記の部品、付属品が欠品していないことを確認して下さい。

部品名、付属品名	10・20L用 部品コード	ステンレス20L用 部品コード	使用数量
①平キャップ (小パッキン付)	KS-20C	KS-20SC	1
小パッキンのみ	KS-20PS	KS-20PS	
②ネジ部 (大パッキン付)	KS-20CN	KS-20SCN	1
大パッキンのみ	KS-20PL	KS-20PL	
③ノズル	KS-20PN	KS-20PN	1
取扱い説明書&油種ステッカー			1

○Oリングパッキン(大)(小)・平キャップ・ネジ部・ノズルは消耗品です。ご使用前に毎回必ず点検して変形・傷等が認められた場合はご使用を中止して速やかに交換して下さい。そのままご使用になりますと漏れの原因となり危険です。

○最初ご使用になる前に開口手順の要領でネジ部を開けて缶本体より分離した後、500ccほどのガソリンを入れネジ部を締め直しよくふってから10分間放置して漏れないことを確かめてから本格的にご使用下さい。

## ②注意事項

### 1. ⚠️ 危険「火気厳禁」

●火気のあるところでは、絶対使用しないでください。

缶内に圧縮された空気がガス化しているため、特に引火性が高く少しの火気でも引火して大変危険です。

○キャップの開口順序を間違えますと缶の内外の圧力差の関係で、ガソリンが噴き出し危険なので必ず下記のキャップ開口順序通りおこなって下さい。

●キャップ、ネジ部をはずしたままでの保管、運搬はガソリンが漏れ、引火の原因となりますので絶対におこなわないで下さい。

●自動車等エンジンやモーターなど動力がついている物に給油する場合は、引火の原因となりますので必ず動力を停止させて動力部が冷えてからおこなって下さい。

●静電気によっても引火しますので、静電気を起こさない状態で使用して下さい。ナイロン、ポリエステル等の静電気が発生しやすい服装を身に付けたことにより起こる静電気でも、キャップ開口後気化したガソリンに引火しますので大変危険です。

●缶を横にして使用しないで下さい。ネジ部をはずすとき、空気孔よりガソリンが噴き出し引火の原因となり大変危険です。

○缶の破損等により漏れが発生した場合は、缶内のガソリンをすべて抜き取り使用を中止して下さい。そのままご使用になりますと引火の原因となり大変危険です。(漏れの判断がつかない場合は、別途有償になりますが、検査、修理致しますのでお買い求めの販売店にご相談下さい。)

### 2. ⚠️ 警告

○万が一火災が発生した場合は、消火器等で速やかに消火して下さい。手に負えない場合は、すぐに消防署に連絡をして消火依頼して下さい。

### 3. ⚠️ 注意

●空気孔の穴は、常時ゴミなどで絶対にふさがらないで下さい。

○缶内に指定容量のガソリンを入れますと、20L用で約20kgとかなりの重量になります。

缶を落とすとケガをする場合がありますから、片方の手で取っ手をつかんで両手でしっかりと持って給油して下さい。

○ガソリンは、揮発系の液体です。下記のような状況下に保管しますと気温の変化により缶内に圧力の差が生じて缶がへこむ原因となりますので、このようなところを避けて保管して下さい。(気温が20℃下がると缶に約1.5tの負圧がかかります)

- i 直射日光が当たるようなところでの長時間の保管(缶の温度は60℃位まで上昇します)
- ii 車の室内、トランクルーム内など、高温になるようなところや、狭く密閉されたところでの保管
- iii 気温差の激しいところや湿度の高いところでの保管(特に気温の高いところから低いところへ移動させる場合)

\* 万が一このような状況下で保管した場合は、へこみの防止策としてまわりに火気がないことを確認し、上記以外の状況下でネジ部を少し緩めて5秒程放置し、缶中の圧縮空気を逃がしてからネジ部を締め直し正しい場所で保管して下さい。

○ネジ部をゆるめた時、空気孔よりガソリンが出る場合があります。これは缶を揺らした事などが原因で缶内部に設けてあるエア抜きパイプの中に入ってしまったガソリンが流出するものであり、異常ではありません。この様な場合はすぐにタオル等でふき取って下さい。

## ③キャップ開口順序

○キャップを開く際は、必ずまわりに火気がないことを確かめてから水平な場所でおこなって下さい。

(1)②(ネジ部)を手で左に(時計と反対回り)廻し少しゆるめて5秒間、缶内の圧縮空気を抜いて下さい。

(2)圧縮空気を抜き終わったら(1)と同じ要領で②(ネジ部)を廻し、缶本体より分離して下さい。

〈ノズルが、缶の中より一緒に出てきます。〉

(3)①(平キャップ)を手で左に廻し②(ネジ部)と分離して下さい。

注)最初に①(平キャップ)を緩めると缶内のガソリンが噴出して大変危険ですから絶対にしないで下さい。

(4)ネジ部には、平キャップと反対側にノズルをセットしてありますので、そのままノズルが上を向くよう逆さまにして缶本体にあてがい、手で右に(時計回り)廻し確実に締めつけてください。

○ネジ部が缶本体と確実に接続されていませんとノズルの付け根部分からガソリンが漏れだす危険です。確実に締めつけて下さい。

\*ネジ部をゆるめたとき、空気孔よりガソリンが出る場合があります。これは缶を揺らした事などが原因で缶内部に設けてあるエア抜きパイプの中に入ってしまったガソリンが流出するものであり、特に異常ではありません。(この様な場合はすぐにタオル等でふき取って下さい。)

(5)使用後にノズルを収納する場合は、開口手順の逆をおこなって下さい。

